

伊賀市スポーツ推進計画進行管理 取組計画シート（概要）

【総合目標】 成人の週1回以上のスポーツ実施率（目標 65.0%程度） 全国 51.7%（R7）

	R4	R5	R6	R7
実績	—	41.9%	41.6%	43.1%
スポーツ実施率は徐々に増えてきているが、目標にはほど遠い状況となっている。まずは全国平均を目指し、様々は取り組みをさらに推進していく必要がある。				

1. 基本目標 「する」 スポーツ人口の拡大

【成果目標】 市民スポーツフェスティバルの参加者数（目標 2,000 人）

	R4	R5	R6	R7
実績	1,010 人	986 人	747 人	1,008 人
参加者数の推移としては、毎年約 1,000 人前後となっており、目標の半分となっている。市民のスポーツニーズなどにあった事業内容を検討し、実行していく必要がある。				

【施策1】 生涯スポーツの普及と推進

①子どものスポーツ活動

	事業名	評価
1	スポーツ少年団運営事業	B チーム統合等で団数は減少したが、総団員数は増加している。各事業への参加も積極的であり、スポーツ少年団活動を通じて子どもたちの健全育成を図ることができた。
2	総合型地域スポーツクラブの運営	A 市内に6団体が活動を行っており、年間を通じたスポーツ教室の開催など地域スポーツの核としての役割を果たせた。
3	B & G海洋センター活用事業	B 2施設あるB & G海洋センターを活用して、子どもたちを中心とする普段できない水辺体験等の取組を推進した。
4	レクリエーションスポーツの普及 スポーツ教室開催事業	A レクリエーション協会や伊賀市スポーツ推進委員を中心に、市民がスポーツを気軽に楽しめる環境づくりができた。

②成人のスポーツ活動

	事業名	評価
5	健康マイレージの普及	A 事業として目標達成に近い成果があった。引き続き市民が運動習慣などの健康づくりの習慣が身につくような取組を推進する。
6	健康づくり教室	B 体操等を自宅でも継続してできるよう出前講座やまち講師による出前講座を実施できた。団体からの申請が増加した。

7	総合型地域スポーツクラブの運営 【再掲】	A	市内に6団体が活動を行っており、年間を通じたスポーツ教室の開催など地域スポーツの核としての役割を果たせた。
---	-------------------------	---	---

### ③高齢者のスポーツ活動

	事業名		評価
8	介護予防普及啓発事業	B	認知症・介護予防教室が計画に基づき開催された。目標には少し達しなかったが、市民が健康で生き生きとした生活が送れるための取り組みとして効果があった。
9	講座や教室の開催	A	取組計画に基づき認知症・介護要望教室の実施やスポーツ施設を活用した事業の開催が開催され、目標を上回る成果があった。
10	総合型地域スポーツクラブの運営 【再掲】	A	市内に6団体が活動を行っており、年間を通じたスポーツ教室の開催など地域スポーツの核としての役割を果たせた。
11	健康マイレージの普及 【再掲】	A	事業として目標達成に近い成果があった。引き続き市民が運動習慣などの健康づくりの習慣が身につくような取組を推進する。
12	忍にん体操の普及	B	忍にん体操を概ね計画どおり実施し、目標に近い参加があった。引き続き事業を継続し楽しみながら体を動かす習慣づくりを推進する。

### ④障がい者のスポーツ活動

	事業名		評価
13	パラスポーツの普及	A	取組計画に基づき事業を実施し、障がい者のあるなしに関わらず、パラスポーツやレクリエーションスポーツへの理解を深めることが出来た。
14	障がい者スポーツ大会への支援	B	取組計画に基づき事業を実施し、目標には少し達しなかったが、障がいのある人がスポーツなどに主体的に参加できる機会の充実を図れた。

### 【施策2】 子どもの体力向上

#### 体力向上とスポーツが好きになれる取組みの推進

	事業名		評価
15	保育所（園）・幼稚園での「からだそだて」の実施	A	計画どおりに事業を実施し、発達段階に合わせた運動遊びを取り入れたことで、子どもたちの体力向上や基礎運動能力を高めることが出来た。
16	学校体育カリキュラムの実施	A	全ての小中学校において、1学校1運動を設定し運動の日常化及び運動時間の確保に取り組むことが出来た。

17	課外体育（クラブ活動）での専門講師の活用	A	部活動指導員を適正に配置し、生徒の体力・競技力の向上に努めることができた。
18	体力・運動能力等の調査	A	全国体力・運動能力、運動習慣等調査を行い、全国比で小学生 99.5%、中学生 94.7%と高い結果となった。
19	ACP（アクティブチャイルドプログラム）活動	E	令和6年度に実施したことを踏まえ、今年度は他の事業（健康体操等）を行った。楽しみながら積極的に体を動かすことの習慣化としては、様々な事業を取り入れ取り組めた。
20	スポーツ少年団運営事業【再掲】	B	チーム統合等で団数は減少したが、総団員数は増加している。各事業への参加も積極的であり、スポーツ少年団活動を通じて子どもたちの健全育成を図ることができた。
21	レクリエーションスポーツの普及 スポーツ教室開催事業【再掲】	A	レクリエーション協会や伊賀市スポーツ推進委員会を中心に、市民がスポーツを気軽に楽しめる環境づくりができた。
22	総合型地域スポーツクラブの運営【再掲】	A	市内に6団体が活動を行っており、年間を通じたスポーツ教室の開催など地域スポーツの核としての役割を果たせた。

## 2. 基本目標 「みる」 スポーツ活動の普及・啓発

【成果目標】 スポーツ観戦に関心がある人の割合（目標 90%）

	R4	R5	R6	R7
実績	—	74.3%	70.1%	76.1%
スポーツ観戦に関心がある人の割合は徐々に増加している。目標達成に向け各種取り組みをさらに推進していく必要がある。				

### 【施策3】 みるスポーツの推進

#### ①スポーツチーム等との連携

	事業名	評価
23	伊賀FCくノ一三重との連携	B 伊賀FCくノ一三重の試合や市民交流イベントなどを通じて、市民にスポーツを身近に感じてもらう取組を継続して実施できた。

#### ②スポーツを活用した地域の魅力発信や誘客

	事業名	評価
24	スポーツイベントなどの発信	A 広報やHP、SNSなどの様々な媒体を活用し効果的に情報発信を行い、市民のスポーツへの関心を高めた。

【施策4】 地域活性化やふれあい機会の醸成  
地域スポーツの推進

事業名		評価	
25	スポーツ推進委員運営事業	A	ボッチャやモルックなどのレクリエーションスポーツの研修を実施し、各委員のスキル向上を図れた。
26	地域でのスポーツ行事の開催	A	地域行事などへの実技指導（派遣）数が年々増加しており、身近な環境で気軽にスポーツを楽しむ環境づくりが進んだ。
27	学校体育施設開放事業	A	学校施設開放事業を計画どおり実施した。利用団体数は年々増加傾向にあり、施設を有効活用した地域スポーツの活性化を図れた。

3. 基本目標 「ささえる」 スポーツ環境の体制整備・施設最適化

【成果目標】 スポーツ施設の平均稼働率（目標 55.15%）

	R4	R5	R6	R7
実績	49.5%	49.74%	47.29%	53.57%
平均稼働率は徐々に増加しており、目標達成が可能のところまできている。今後さらに取り組みを推進し、計画内の目標達成を目指す。				

【施策5】 競技スポーツの支援・連携

トップ選手の競技力向上とスポーツ協会との連携

事業名		評価	
28	全国大会出場者支援事業	A	全国大会への出場件数や奨励金の交付件数は増加傾向にある。引き続き支援を継続する。
29	スポーツ協会運営支援事業	A	計画どおり事業を実施した。スポーツ協会加盟団体の競技力の向上を図れた。

【施策6】 指導者・ボランティアの人材育成と団体の自主財源の確保

①スポーツ指導者・ボランティアの育成と発展

事業名		評価	
30	指導者の育成 社会体育振興事業委託	B	講習会や研修会を開催し、各団体が自主的に指導者スキル向上を行った。指導者の高齢化が進んでいることから、今後、指導者の後継者育成に取り組みを進める。
31	指導者のスキル向上 社会体育振興事業委託	B	講習会や研修会を開催し、各団体が自主的に指導者スキル向上を行った。
32	ボランティアの募集 スポーツ振興事業	D	シティマラソン等の事業ごとにボランティアが必要な場合に募集を行っている。スポーツボランティア制度の必要性を踏まえ、制度構築について検討する。

②既存イベントの運営見直し

	事業名	評価	
33	各種イベントの見直し スポーツ振興事業	D	シティマラソン、スポーツフェスティバル、伊賀地区駅伝大会の開催内容は、毎年見直しを行い改善しているが、事務局は現在も市が担っており、引き続き受け皿となりうる団体を検討する。
34	各団体の安定的・自立型運営 スポーツ振興事業	D	市が事務局を担う団体が多くを占めている。各団体が自立し、運営していけるよう組織強化等の取り組みを進める。

【施策7】 スポーツ施設整備と利便性の向上

①スポーツ施設の充実（計画的な施設改修・整備）

	事業名	評価	
35	スポーツ施設整備事業 体育施設整備事業	A	計画に基づき修繕、改修を行った。また、突発な修繕についても全てではないが対応できた。
36	施設維持管理事業 体育施設維持管理事業 市直営施設維持管理事業	A	安全で快適な競技環境を利用者へ提供するため、指定管理者へ業務を委託し、適正に施設管理を行った。
37	学校体育施設開放事業 【再掲】	A	学校施設開放事業を計画どおり実施した。利用団体数は年々増加傾向にあり、施設を有効活用した地域スポーツの活性化が図れた。

②利便性のある実施環境の提供

	事業名	評価	
38	施設利用の利便性の向上 体育施設整備事業	A	計画に基づきアーバンスポーツ環境整備を行ったほか、老朽化した卓球台の更新を行った。